

8 . 広報活動

1 . 広報活動の重要性

広報活動による情報の伝達は、SPring-8に限らず多くの研究施設にとって、非常に重要である。高輝度光科学研究センターは、日本原子力研究所・理化学研究所が巨費を投じて建設した大型放射光施設（SPring-8）の普及啓蒙に努め、放射光利用研究者の裾野を広げるために放射光利用の概要・成果に関する普及啓蒙資料・映像等を作成し、広く見学者の受け入れを行っている。SPring-8の運転状況、放射光源と関連する機器の開発・高度化の情報、施設利用の支援体制、放射光利用による研究活動等を、SPring-8の職員・外部のSPring-8利用者・放射光関連の科学者コミュニティ・科学者全体に対して情報伝達することが大切なことは言うまでもない。今日のように科学技術が進化・高度化・複雑化している状況で、公的な予算によって建設された研究施設で行われている研究やその成果は、人類の知的好奇心を満たすと共に我々自身の生活の質を向上させる役割を担っている。同時に、情報伝達による社会への働きかけによって、科学的な知識・科学技術に対する理解を増進して人々の関心を喚起し、公的予算によって作られた施設の存在意義を示し、将来における研究者・技術者の裾野を広げることが期待されている。

このような見地から、広報活動の重要性は今後益々強まると考えられる。

2 . 広報業務概要

平成16年度から組織変更により広報部は広報室となった。平成16年度の広報業務は職員3名とその他5名で行われた。広報室に関する予算は58,628,000円であった。

業務内容を以下の項目に従って示す。

2-1 見学者の受付及び案内

見学者の受付及び案内は、平成12年に普及棟が開設されてからは、年末・年始を除いて原則として毎日見学者を受け入れている。平成16年度には1,730件、19,590人の見学を受け付けた（施設公開日の3,391人は含まず）。これまでの来訪者の推移を図1に示しておく。平成9年の供用開始以来見学者の数に大きな変化はないが、通常の研究施設として年間2万人もの見学者を受け入れている施設はあまり例がないと思われる。

今年度は、兵庫県が行っている公園都市のPR施設オプトピアとの連携について、人数の多い見学者や小中学生、自治会等の親睦団体の見学の窓口の整理や実際の見学時の役割分担を見直すなど見学者への便宜を図れるよう実態に合わせた調整を行った。またSPring-8の紹介ビデオを5年振りに改定するとともに、昨年度作成した見学対応マニュアルを改良した。



図1 平成10年度から16年度までの見学者数の推移

2-2 展示物

平成12年に放射光普及棟は竣工し、4月の施設公開日にオープンした。展示物は主に加速器やビームラインの装置の一部、R&Dで製作しその後不用になった装置、施設に関連した模型などである。SPring-8全体の模型、蓄積リングとシンクロトロン of 主要な電磁石（偏向電磁石/4極電磁石/6極電磁石）真空関連機器、挿入光源などを集め、4極電磁石の集束作用を示す電子ビーム模型や進行波型の加速器模型を展示している。霧箱やスパークチェンバーは市販品を採用した。平成14年3月には展示室を改造し、クライストロンカットモデル・高周波加速空洞模型、タンパク質の分子模型等を新規に展示し、あわせてパネルによる成果の説明などを充実させた。平成15年3月には定在波型の加速器模型を設計・製作し、進行波型の加速器模型とならべて展示した。これらの展示物は、他の施設にはないものを自分で設計・製作し、しかも体験型の模型を多くすることを心がけている。

平成15年度には、4極電磁石の動きを示す模型、レーザーを用いた干渉・回折装置、ベータトロン振動の結合現象を説明するための振り子振動模型等の自作展示物を追加した。そして年度末には二度目の普及棟の改造を行い、世界で最初の放射光専用の蓄積リングであるSOR-RINGを展示コーナーに設置した。実際に稼働していた小型の加速器を展示することで全体像が見え、理解しやすくなったと考えている。これに伴って展示スペースを増やし、磁石等一部重なる展示は別の場所に移した。この改造も、体験型の展示物重視の姿勢の現れである。

平成16年度は紹介ビデオの改定に合わせて研究成果の展示場所にスポットが当たるよう小改善を行うとともに、SPring-8全体模型のナレーションを新しくし、英語のナレーションを追加した。



図2 明るくなった研究成果展示スペース

3. 報道対応

新聞・テレビ・ラジオ・出版物（雑誌、書籍）など報道媒体に対して、SPring-8の活動や研究成果などに関する情報や資料を提供し、取材に協力することによりまずは報道関係者の理解を深め、SPring-8が広く一般に正しく公正に報道されるように努めた。

3-1 プレス発表

研究成果やSPring-8に関する情報の発表・提供を記者会見や資料配付等で行う。高輝度光科学研究センターの広報室で直接対応した事例は、平成14年度は10件（記者会見3件、資料配付7件）、平成15年度は12件（記者会見4件、資料配付8件）、平成16年度は16件（記者会見4件、資料配付12件）であった。記者会見をした成果発表は、「三角縁神獣鏡の原材料産地を探る - SPring-8を利用した青銅鏡の蛍光X線分析 - 」、「カルシウム蛋白質のカルシウム閉塞機構を解明」、「金ナノ粒子の強磁性を世界で初めて確認 - ナノ磁性微粒子材料の設計指針への期待 - 」、「ナノ細孔に吸着した水素分子の直接観測に成功 - 水素貯蔵多孔質物質の設計指針への期待 - 」の4件である。

平成15年度、平成16年度と月1件を越えるプレス発表が行えるようになってきた。これはSPring-8が供用を開始して7年を経過し成果が蓄積してきたことと、プレス発表についての認識が研究者に浸透してきたことが大きく寄与していると考えられる。

このほかに平成16年度は大きな台風が何度も上陸し、SPring-8も被害を受けた。台風被害の関連で4件のプレス発表（資料配付）を行った。また、平成15年度に続いて平成16年7月から日刊工業新聞に連載を開始した。タイトルは「SPring-8の挑戦」である。この連載でSPring-8で用いられている高度な精密機械技術、電子技術、制御技術が世界最高性能を実現するのにいかに生かされているかを紹介している。

3-2 取材対応

新聞、テレビ、雑誌などのインタビューや写真撮影などの対応である。平成14年度の47件、平成15年度22件に対し、平成16年度は25件であった。SPring-8を紹介するものが多いが、今年度目立ったのは企業が自社や自社製品のPRにSPring-8の映像を使いたいという希望が多かったことで、ニチコン、オルガノ、住友ゴムなどから取材を受けた。

また今年度は台風被害関連の取材が8件以上あり、緊急時の対応について課題を残した。

4. 広報行事

SPring-8を広く理解してもらい、科学技術の啓蒙を促進するために各種イベントを企画し、実施する。また、国内外の各種展示会に前述の展示模型を出展し、外部にも広く情報発信を行っている。

4-1 施設公開

科学技術週間参加行事として、SPring-8の施設を一般に公開するとともに、科学実験教室などの各種イベントを実施し、SPring-8の活動状況、研究内容を理解してもらい、あわせて科学技術の普及啓蒙を図ることを目的に実施している。施設公開そのものは平成3年から行っており、平成16年は第12回目で、キャッチフレーズ「何回みても新鮮な驚き それはSPring-8」を掲げて4月24日（土）10時から16時に公開された。今回も県民局の主催する「西播磨フロンティア祭スプリングフェア2004」の行事としても位置づけられた。施設公開はほぼ全員参加の体制で行い、放射光普及棟、中央制御室、蓄積リング棟実験ホール、マシン収納部、線型加速器、長尺ビームライン、ニュースバルが公開され、さらに小中学生を対象として科学実験、実演、工作教室などのイベントが実施され、内容も充実したものになった。今回はノーベル物理学賞受賞者小柴昌俊氏をお招きし、「やれば、できる」と題した講演をお願いした。今回の来場者数は3,391人であった。



図3 蓄積リング棟実験ホールで行われた工作教室「光通信セットを作ろう」



図4 小柴先生の講演の様子

4-2 高校生のためのサイエンス・サマーキャンプ

兵庫県在住の高校生を対象に、高輝度光科学研究センター・日本原子力研究所・理化学研究所・ひょうご科学技術協会・兵庫県企業庁が共催で行っている。今年度は8月8日～10日に実施し、20名の高校生を受け入れた。内容はSPring-8の施設見学、科学講演会（西はりま天文台・石田副台長による「宇宙の調べ方」）、パーベキュー大会、体験実習（光の粒子性と波動性、君も名シェフ!? - 温度をどうやって正確に測るか、生命体を構成する物質の構造を解き明かせ?、電子線と放射光を比較して）であり、最後にまとめと感想文を作成した。今年度は西はりま天文台公園の見学も行った。

4-3 高校生のためのサマー・サイエンスセミナー

兵庫県の高校生が科学セミナーに出席し、科学講演を聴いたり、科学公園都市にあるSPring-8・姫路工業大学理学部・先端科学技術支援センターなどを見学する企画である。今年度は8月19日・20日に実施し、合計434名の高校生が参加した。兵庫県立粒子線医療センター院長菱川良夫氏による「21世紀のがん治療最新技術～究極の放射線治療 - 粒子線治療について～」と兵庫県立大学教授籠島靖氏による「SPring-8で何が見える?」の2つの講演のあとSPring-8の見学を行った。

4-4 サイエンス・アドベンチャー・スクール (SAS)

サイエンス・アドベンチャー・スクール (SAS) は播磨科学公園都市の播磨高原東小学校にSPring-8の研究者が向き、科学技術についての実験や講義を行うもので、平成11年度から実施している。小学校の3・4年生と5・6年生に対して、年6回ずつ実施してきた。平成15年度は2回実施したが、今年度はSPring-8からの参加はなかった。（詳しくは<http://www2.117.ne.jp/kagayaki/>参照）

4-5 展示会出展

企業や一般の方々を対象にSPring-8の理解を深め、SPring-8を利用して得られた成果や利用の方法を宣伝し、利用者を増やすため、展示会にも参加している。昨年度、関西ナノテクノロジーフェア、国際フロンティア産業メッセ、光都ビジネスコンベン姫路、nano tech 2004国際ナノテクノロジー総合展・技術会議の4つに出展した。地元関連と教育関連として、青少年のための科学の祭典、ジュニアサイエンスアカデミー「光」、西播磨ふれあいフェスティバル2003、子ども環境学習フォーラム、サイエンスサテライトの4件で出展を行った。ジュニアサイエンスアカデミー「光」では同時に講演も行った。国際協力として平成15年度は8月末にサンフランシスコでSRI2003 (Synchrotron Radiation Instrumentation 2003) が開かれた際、Public Science Dayのために進行波型加速器模型を出した。

今年度は8月28日の「青少年のための科学の祭典」、9月29日～10月1日の日経ナノテク・ビジネスフェア2004、平成17年1月18日～22日の国連防災世界会議、平成17年2月23日のナノテクビジネスフォーラム2005、同2月23日～25日のnano tech 2005国際ナノテクノロジー総合展・技術会議、平成17年1月8日～23日のサイエンス・サテライトのSPring-8特別展覧会に出展した。科学の祭典では加速器模型を中心に展示し、サイエンス・サテライトでは加速器模型とパネ模型を展示し、1日講演を行った。ナノテクビジネスフォーラムではSPring-8から2名の研究者によるプレゼンテーションがなされた。国際ナノテクノロジー総合展では展示の他に短いプレゼンテーションを行った。

5. 広報資料の作成と管理

広報資料の作成・管理については、SPring-8に関する各種パンフレット、説明用ビデオ・資料の編集・制作などを行う。資料としてはSPring-8パンフレット（和文・英文）、SPring-8パンフレット三つ折り（和文）、SPring-8パンフレット1枚もの（和文）、SPring-8子ども向けパンフレット（和文）、財団パンフレット（和文）、SPring-8 News（年6回発行）、写真・映像の撮影及び作成、各種パネルなどがある。

平成16年度は和文パンフレットを全面改定し、普及棟案内パンフレットを作成した。

6. ホームページの作成と充実

広報手段としてウェブは非常に重要である。そこで、平成13年度から広報室がSPring-8ホームページの管理・運営を担当している。また、WWW編集委員会の事務局も広報室に置かれている。平成17年度のSPring-8ホームページ全面改訂を目指し、平成16年度はWWW編集委員会を6回開いた。平成17年度には、利用事例集データベースを搭載した新しいホームページが公開される予定である。平成16年度から、プレスリリースの概要を英訳し、英語版「Topics」のページに掲載するようにした。その結果、昨年世界の放射光施設が協力して立ち上げた放射光の国際ウェブサイト [lightsources.org](http://www.lightsources.org) (<http://www.lightsources.org/cms/>) も、SPring-8のプレスリリースをNewsのページに毎回取り上げて掲載するようになった。刊行物に「SPring-8 Overview for Beamline Review Committees」が追加され、刊行物のオンライン出版がさらに充実した。台風被害の際には、SPring-8ホームページが情報の発信に重要な働きをした。台風16号（8月30日）による被害をプレス発表した当日（8月31日）は、1日で31,044件という記録的なアクセスがSPring-8ホームページにあった。この数字は、災害や事故などの不測の事態において、ホームページの果たす役割の重要性を証明するものでもある。

平成15年度の年間アクセス件数は837,806件、日本語ペ

ージの更新件数は198件であった。平成16年度の年間アクセス数は978,287件、日本語ページの更新件数は189件であった。参考のため、ここ4年間のアクセス件数と更新件数をグラフで示しておく（図5および図6）。

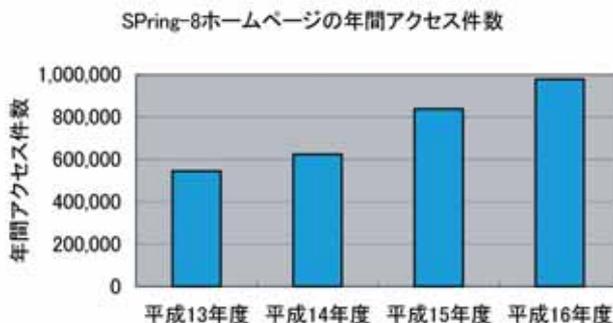


図5 年間アクセス件数の推移

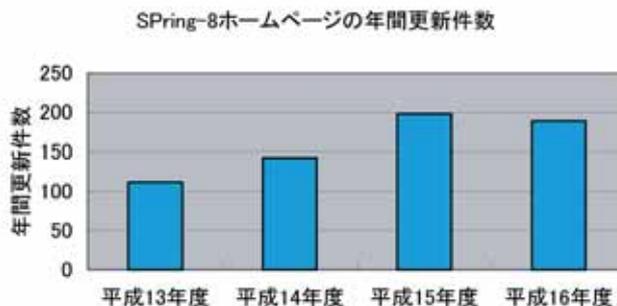


図6 年間更新件数の推移

広報室 原 雅弘